

須磨海岸を望む高台。日本庭園に囲まれるように邸宅が構える。タイルが張り巡らされた外壁や化粧石も使われたテラス、アーチ状の窓枠が、風情あるたたずまいを演出。木製のドアを開くと、大理石のエントランスが出迎える。書院造りの大広間、アーチ窓から自然光が降り注ぐ洋室などが華やかな大正モダニズムを今に伝えている。



神戸市須磨区 県指定

西尾家住宅

大正ロマンの薫り漂う

正8年、神戸で活躍していた 閣(大阪市)を手掛けた建築家 西尾類蔵氏の邸宅 家の設楽貞雄氏が設計し、海外から訪れた客らをもてなし

た。

戦時中は戦火に見舞われるも、被害を受けなかった。戦

段など、ほぼ完成当時の状態で現存する。

大正ロマンを体現するかのようなたたずまいの西尾家住宅
＝神戸市須磨区離宮西町2

後は連合国軍総司令部(GHQ)が接収、撤収後は一時閉鎖されていたが、81年からテニススクールとして建物の一部を開放した。95年の阪神・淡路大震災にも遭ったが、わずかに補修工事が行われただけだった。戦争と震災を乗り越え、幾何学模様のステンドグラス、木彫りが施された階

2007年には結婚式場とレストランなどを備えた施設に生まれ変わり、現在は「神戸迎賓館 旧西尾邸」の名で親しまれる。鳳凰が彫られた欄間や障子の格子が残る大広間、日本庭園など写真映えする景観が人気の理由だ。

メモ 2010年、兵庫県指定重要有形文化財に。日本庭園の茶室「真珠亭」は13年に改修、復元。赤茶色の土壁が特徴的で結婚式の前撮りなどで人気を集め、レストランは地域住民らでにぎわう。パルクメント 06・6371・2700
アクセス 山陽電鉄月見山駅、須磨寺駅から徒歩約6分

現在は類蔵氏の孫、一三さん(86)が所有。歴史的建造物などの活用などを手掛けるパルクメント(大阪市北区)が運営する。同社広報の木村真奈美さん(27)は「オーナーの思いを紡ぎ、町のシンボルとして残していきたい」と話した。

(大橋凜太郎)

